

各位

2014年2月7日  
リム情報開発株式会社

## リム情報開発(株)30周年記念式典 代表取締役社長 盛 尚子あいさつ全文

皆様、こんばんは。

このような高いところからのご挨拶、はなはだ失礼ではございますが、本日はお忙しい中、弊社リム情報開発の30周年記念パーティーにお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

30年前の1984年2月、とある会社で縁あって出会った3人の若者がエネルギー業界ではたぶん、日本で初めてとなる価格評価に挑み、この業界の輝かしい未来への一助になろうとこの会社を立ち上げました。エネルギー業界の方々に取引の指標を表していけるように、そして、この日本というアジアの1国から世界に向けてエネルギー情報を発信していけるようにと、一抹の不安を抱えながらも、期待を抱いて、この会社を興しました。

そのころは「市場の透明性」という言葉は今ほどは使われていなかったような気がします。記事を見て、「役に立った」と言われれば喜び、「よく調べてるね」と言われれば嬉しく思い、そして質問を受けるようになると、この業界で何かしらの役割を担ったのではと、取材記者としてうきうきした気持ちにもなりました。一方、「なぜこんなこと書いたの」とか「書けばいいってもんじゃあない」とお叱りを受ければ、市場を透明にするということは必要なのかどうかと心迷う、そのようなときもありました。その「市場の透明性」という言葉はこのところ、幅広く使われるようになり、浸透してきました。一方で、私たちのつけている指標の透明性も益々、求められるようになってきました。その指標の付け方については、メソドロジーを開示しているのですが、本来、どうしてこのような価格評価に至ったかを日々の記事の中で十分に説明をすべきであると思っています。

お手元にある年表をご覧になられると一目瞭然のように、我が社としてはこの30年の間にいろいろとあったと思っはいるのですが、世の中に比べると特記すべきこともなく、年表にしてみると、見事にスカスカ、空欄が目立ちます。つまり、私たちのこれまでは粛々とレポートを作成し続けた30年間だったんだなと改めて気づかされました。だからこそ、多くの取材を通して得た情報を、ミスリードしないように精査し、読者の方々にお届けする、その一連の仕事にプロ意識を持って、取り組んでいかなければならないと思っております。

指標の説明を十分に記事の中であらわすこと、取材を通して得た情報を精査して、迅速に読者に配信すること、この2つがこれまでリムが続けさせた軸であり、この軸は今後もぶ

らしてはいけないと、30年の節目にあたり、より一層、思いを強くしております。

この2つに加えて、リムがこれまで続けてこられた最大の要素は皆様方です。ここにいらっしゃる方々はじめ、きょうお集まりいただけなかった方々からもこれまで、様々な助言、ご忠告、苦言、多くの励ましをいただきました。レポート作成だけでなく、日々の業務に加え、会社運営に至るまで多くの方々に支えていただきました。30年といいましても社員数が2ケタになったのはここ10年くらいのことです。社員が増えたことでここ数年、社員だけでなく、私自身も休みをとることができるようになりました。このように時間的に多少のゆとりができたおかげで、25年には間に合わなかったけれども、30年経ってようやく本日、会社始まって以来初めて、このような会を開き、皆様に日頃の感謝をこめて心からのお礼を申し上げる機会を設けることができました。本当に皆様、これまでありがとうございました。きょうのこの宴会を皆様に少しでも楽しんでいただこうとここ半年、社員みんなでいろいろと計画を練ってまいりました。本日はどうぞごゆっくり、ご歓談くださり、楽しい時間をお過ごしただけなら幸いです。では、最後にもう一度、ありがとうございます。そしてこれからもどうぞよろしくお願ひします。ご清聴ありがとうございました。

以上